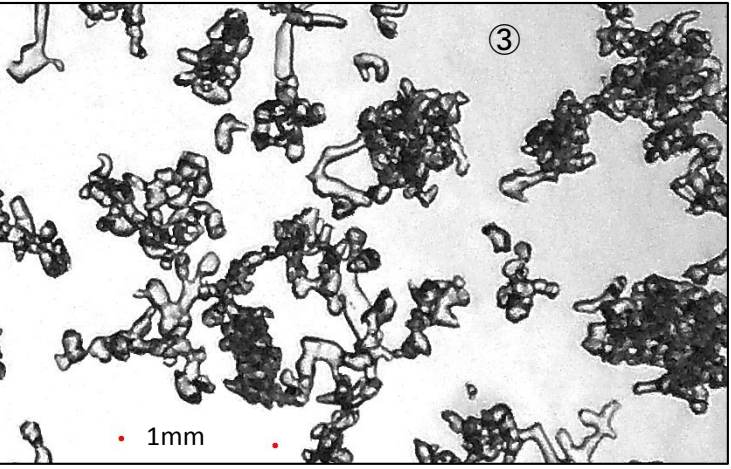
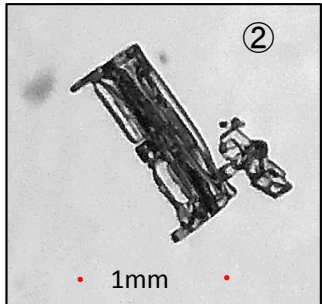
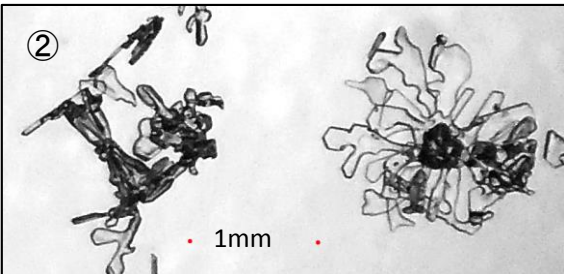
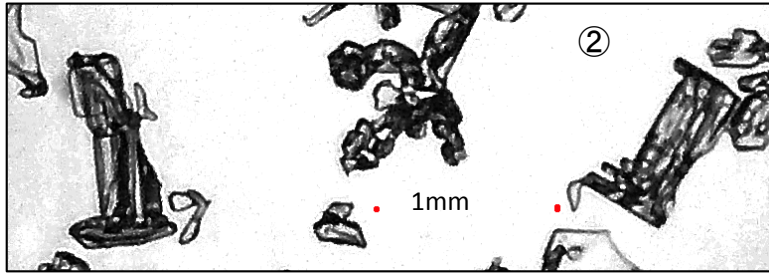
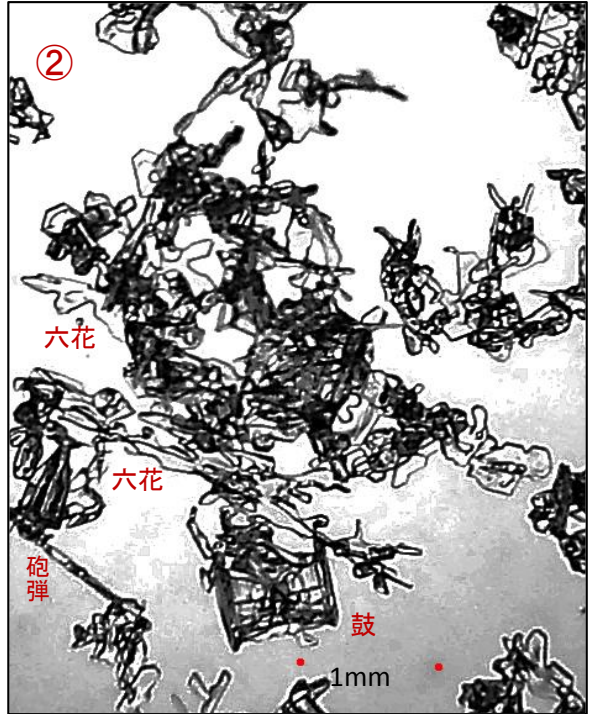
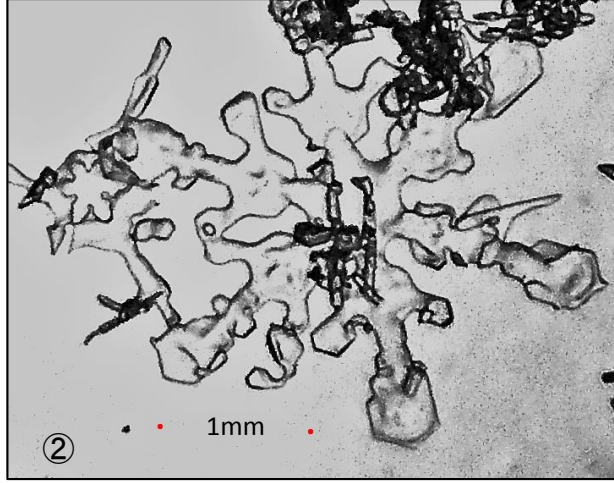
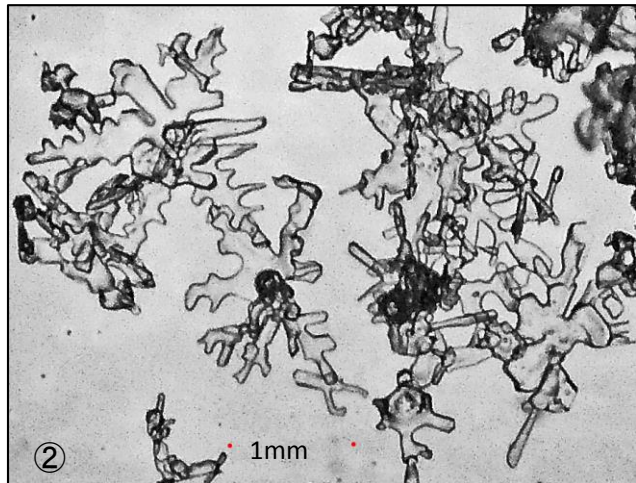
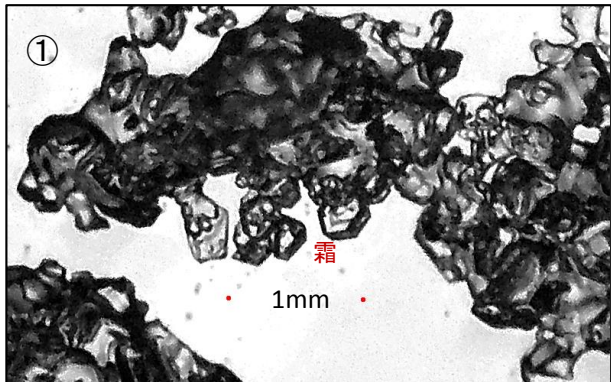
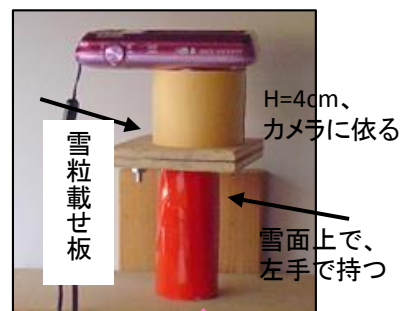
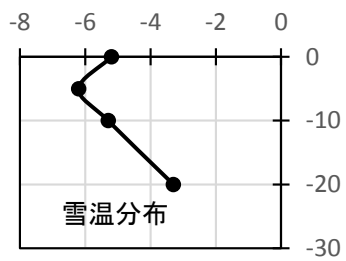


これまでの車庫内での撮影照明はLEDライト。カメラレンズはルーペに載せる。雪粒には下からの光のみ(透過光)。上から直接雪粒に当たる光はLEDに比べ無視できる。欠点:装置は野外向きでない。長所:ルーペを除きながら、撮りたい雪を画面中央に移動・回転できる。



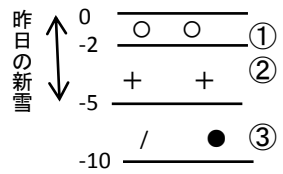
雪粒が全くないのは判るが、野外では天候によって、雪粒の分散作業が難しい。熟練を要する。最新の野外用撮影装置は照明付き、台に固定、両手が自由。



右上の装置で撮った②の写真本装置の長所:仕掛けが簡単
短所:暗いとダメ、雪載せ板を希望の位置に移動できない。ブレやすい。

もっとも簡単な野外向け雪粒撮影装置、右上

雪面からの反射光
カメラを右手に画面を見ずにシャッターを切る



昨日(第19号)の新雪15cmが日中の暖気、夜間の冷え込みでざらめ(クラスト化)、2~5cm間は雲粒なし結晶が残る。気温が低いので車庫内、ガラス板上で撮影

2018/2/24 7:15 気温-3.9°C 車庫内-3°C前後 晴